

日本バイオセーフティ学会誌 「バイオセーフティ」 投稿規定

1. 投稿内容：

病原体等の取扱い、安全装置、防護具、実験室の施設設計、動物実験などに関わる動物バイオセーフティ、病院・検査室に関わるバイオセーフティ及び病原体管理などのバイオセキュリティを含むバイオリスクマネジメントの領域の投稿とする。

2. 投稿の形式：「原著」、「レター」、「総説」、「解説」、「講座」、「レポート」、「トピックス」
3. 投稿資格：原則として、本会会員とする。「原著」、「レター」の筆頭者または論文責任者は会員であること。「総説」、「解説」、「講座」、「レポート」、「トピックス」については非会員も投稿できる。
4. 原稿の作成：原稿は執筆要領に従って作成する。
5. 著作権：本誌に投稿されたものの著作権は日本バイオセーフティ学会に帰属するものとする。転載時には、その都度、バイオセーフティ編集委員会の許可を必要とする。
6. 原稿の審査：バイオセーフティ編集委員会にて行う。必要に応じ委員以外の専門性のある者を査読者とする。
7. 校正：著者校正を原則として1回行う。
8. 倫理・利益相反：広く運用されている倫理基準に従う。また、動物実験は、実施された公的機関の策定した動物実験ガイドラインおよび実施機関の動物実験規則等に従って実施されたことを記載する。
9. 個人情報保護：個人情報管理を行う。
10. 投稿先：日本バイオセーフティ学会事務局へ電子媒体を送付する。
メールアドレス：jbsa-gakkai@primate.or.jp
11. 投稿費用：投稿料として1件につき1万円とする。バイオセーフティ編集委員会からの委嘱による投稿の場合は不要とする。
12. 学会ウェブサイトへの掲載：会員へ配布後、6か月程度たってから学会ウェブサイト
に公開掲載する。

執筆要領：

1. 投稿原稿の形式：

- (1) 原著、レター：内容が未発表及び未投稿であること。または、これに相当するもの。
原則として、刷り上がり8頁以内とする。レターは2頁程度とする。1頁あたりの文字数は約2,000字とする。
- (2) 総説：最新の知見を全般的に紹介する、または、主として著者らの最近の研究・調査を解説する。原則として、刷り上がり8頁以内とする

- (3) 解説：最新の知見をテーマ毎に紹介する、または、主として著者らの最近の研究・調査を解説する。原則として、刷り上がり 6 頁以内とする。
- (4) 講座：原則として、同一テーマにつき、複数の号で解説する。原則として、刷り上がり 8 頁以内とする。
- (5) レポート、トピックス：最近の動向や活動の紹介などを掲載する。原則として、刷り上がり 4 頁以内とする。

2. 原稿の作成要領：

原稿は日本語とする。Microsoft Word, Excel, Power Point 等で作成した、電子媒体を提出する。本文は MS 明朝、英語・数字は Times New Roman で作成する。11 ポイントの活字で作成する。文章は、基本、ある・である調とする。句読点は、「、」と「。」とする。図・表は適切なソフトを用いて作成する。表題頁を 1 頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第 1 頁（表題ページ）に表題、著者名、所属機関名とその所在地、論文種別、カテゴリ（下記参照）を記載する。また、英文の表題、著者名、所属機関名を記載する。次いで連絡著者の氏名、所属機関及び住所、電話番号、E-mail アドレス（必須）を記載する。
- (2) 原著、総説、解説、講座については、第 2 頁に 800 文字以内の「要旨」及び 3～6 語の「キーワード」を記す。原則として、英文の要旨（abstract:150 語以内）、キーワードを記載する。ただし、原著については必須とする。
- (3) 原著では、第 3 頁以後に、序文、材料と方法、結果、考察、謝辞、利益相反、参考文献の順番で記載する。結果と考察をまとめて結果と考察として記述しても良い。レターでは、第 2 頁以後に、必ずしも序文、材料と方法、結果、考察の区別をつけて記載する必要はない。項目は 1,(1),1,①,a の順に付ける。
- (4) 総説、解説、講座では、第 3 頁以後に「1. はじめに」、「2. 大項目」、「3. 大項目」、・・・、「x. 最後の大項目」、「おわりに」とする。大項目の最後の番号の次の番号を「おわりに」に付ける。最後に謝辞（必要であれば）、参考文献の順番で記す。大項目以下の項目は 2-1,(1),1,①,a の順に付ける。
- (5) レポート、トピックスには、「要旨」、「キーワード」は不要で、記載形式を定めない。
- (6) 略語：初出時に、その直後に略語を（ ）内に示し、以下その略語を用いる。
- (7) 単位：次のように使用する。μm, mm, cm, m, Å, μg, mg, g, kg, μl, ml, l, mmol, mol, μM, mM, M, ppm, mol/l, mg/ml, %, sec, min, hr, cpm, °C.
- (8) 使用した試薬及び機器：会社名、都市（州）、国名を記載する。
- (9) 図と表は 1 点ごとに別紙に作成する。アラビア数字で一連の通し番号を付ける（例、表 1、図 1）。

表：適切なソフトを用いて A4 判で作成し、タイトルは表の上部に、注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。

図：著者の作成した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判で作成する。図のタイトル及び注釈は図の下部に記載する。

- (9) 文献の引用：本文中に文献を引用する際は、引用する場所に、引用順に番号をアラビア数字で示し、「」で閉じ、上付きで示す。2つ引用する場合は「1,2)」のようにコンマで区切る。3つ以上引用する場合は「1-4)」や「1,2,5-7)」のようにハイフンを用いる。引用した論文は引用順に並べて論文末尾に参考文献として一覧表示する。記載順序は、雑誌の場合は著者氏名（全員）、論文題名、雑誌の略称、巻、頁、年号とし、単行本の場合は著者氏名、論文名、書名、編集者名、頁、発行所、所在都市、年号とする。雑誌名の略称は、その雑誌が定めている略称がある場合はそれを用いる。

(例)

- 1) Watson, M.L., Johnson, M.K., Smith, J.D. HIV infection in cynomolgus monkeys. *J. Virol.*, 30, 125-145, 2009
- 1) 山本正治, 緒方登. HIVによる針刺し事故. *日本感染症学会誌*, 80, 105-130, 2010
- 5) Washington, J.F. BSL4 Laboratory. The design of bio-containment laboratories (Carter, V.J., ed.), 245-355, Academic Press, London, 2013
- 5) 山田太郎, 林健司. 病原体の管理. *バイオセーフティ* (木村等編), 156-190, 医学書院, 東京, 2015